

2020年度 特定演習

教 員 名	金子輝雄
演 習 テ マ	<p>～修士論文の作成に向けた準備～</p> <p>租税法分野及び財務会計分野で修士論文の作成を予定している者を対象に、テーマの選定、論点の絞り込み、論文構成の検討、参考文献のリストアップ・収集等、スムーズに課題研究指導を受けられるようその準備指導を行なう。</p> <p>論文の完成に向けてその着手は早いに越したことはない。受講者はすでに分野を決定しているであろうが、テーマを具体化していない場合には、じっくり議論したうえで、これを選定してもらおう。また、租税法分野では、「税法論文の書き方」を参照しながら、そのポイントを押さえてもらおう。</p> <p>論文の仮のアウトラインが描けた後は、これに関連する文献の熟読を行ないたい。その際には議論を通じて理解を深め、また新たな課題を発見するという姿勢が大切である。最後に、時間の許す限り、選んだテーマについて、逐次、研究報告をしてもらおう。</p>
演 習 内 容 ・ 方 法 等	<p>論文テーマの選定にあたっては、過去の論文を参考にしてもらおうのも一つのやり方である。本学大学院の修士論文や租税資料館賞受賞論文などが参考になる。</p> <p>基本的な文献として、IFRS 関係および租税法の基本書を取り上げ、輪読を行なう。例年、履修者には、毎回、文献の要約とコメントの報告をしてもらい、教員と履修者の間でこれに関する討論を行ってきた。</p> <p>基本書を読み終えた後は、具体的に、論文を書き進めてもらおう。それがそのまま修士論文になるわけではないが、先の輪読を生かしながら、少しでも書き留めておくと思われる。</p> <p>過去には、IFRS 金融商品基準とバーゼル銀行規制に関する和文献・英語文献の輪読、法人税制度・所得税制度の概観と個別的な課税問題（学説・判例）についての会計学的視点からの検討、法人税法における「公正処理基準」について判例・学説の検討、そして一昨年度は組織再編に係る濫用事件（ヤフー、IBM 事件）を検討してきた。いずれにせよ、受講者の意向を踏まえ柔軟に対応したい。</p>